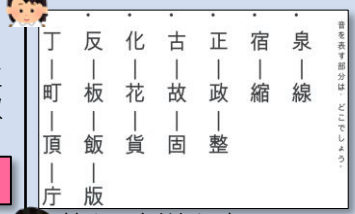
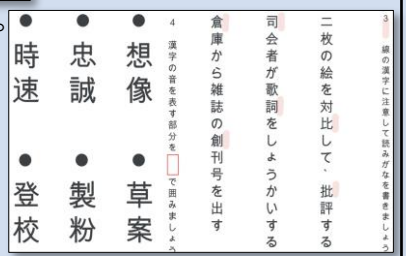
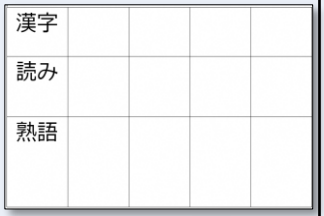
ＩＣＴ活用授業デザイン	問題の内容によってクラウドサービスを使い分ける

小学校	教科【国語】	単元【漢字の広場④　音を表す部分 】

主体的・対話的で深い学びのポイント	目的に合った学習素材を用意するなど、クラウドサービスを適切に活用することにより、個別最適な学び及び協働的な学びの一体的な充実につなげることができる。
ICT活用のポイント	クラウドサービスのアプリの特徴を踏まえ、学習内容に合わせて使い分けることにより、学習のねらいに応じた指導を充実させることができ、言葉への自覚を高めることができる。

使用するICT機器	タブレット、モニター等	使用するアプリ・クラウドサービス等	AIテキストマイニング、Google Workspace（Jamboard、フォーム、ドキュメント）
クラウドの活用	☑教材の配布・回収等　☑資料等の共有 ☑生徒の学習状況の把握　□その他（　　）		

本時のねらい	形声文字について、音と意味、成り立ちについて理解することができる。【知識・技能】

	主な学習活動（学習場面）	ＩＣＴの活用・留意点等	評価
導入	○本時の課題を確認する ○３つの例文に出てくる漢字の共通点に注意して問題に取り組む 個別　一斉	・本時の課題を確認する。「漢字の音を表す部分を探そう」　指針4 ・本時の新出漢字をGoogle Classroomに用意し、必要に応じていつでも確認できるようにする。 ・読み方や共通点などが書き込めるJamboardのファイルを配付する。　クラウド ・「青」の字の成り立ちや意味の説明を、Jamboardで示す。　クラウド　ICT機器	
展開	○複数の漢字に共通する「音を表す部分」に注意して問題に取り組む 個別　協働 ○答えと例外を確認する　一斉 ○「音を表す部分」に注意して文を読んだり熟語を完成させたりする問題に取り組む 個別　協働 ○答えを確認する 一斉　個別	 ・「音を表す部分」を書き込むJamboardを配付する。　クラウド　ICT機器　ここで評価　指針3 ・答えと例外を確認する。  ・漢字の読みや「音を表す部分」を書き込むJamboardを配付する。　クラウド ・答えを確認する。 ・共通した「音を表す部分」をもつ漢字を使って熟語をつくるJamboardを配付する。　クラウド　指針4　指針6　ここで評価 ・答えを確認するためのフォームを用意する。	【知】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付いている。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。
終末	○辞書や教科書を使って、同じ「音を表す部分」をもつ漢字の読みや熟語を調べ、調べたことを共有する 個別　協働	・調べたことを記入するドキュメントを配付する。　指針1　クラウド  ・各自に配付したファイルが入ったドライブを共有し、他の児童の考えを見ることができるようにしておく。　指針3	

※ 表内の指針１～６は、「ICT活用授業指針」８ページにあるICT活用授業の目指す姿１～６を表しています。
※ ICTの導入が目的化しないように、ICTを活用する場面と活用しない場面を効果的に組み合わせることが重要です。
※ 評価の観点　【知】＝知識・技能　【思】＝思考・判断・表現　【態】＝主体的に学習に取り組む態度